





相玉和歌集二百首下

初巻

あゝ玉代巻の巻もくまのりきよに月日のたれもまを
玉代

あゝふく巻の巻候の奥のありと巻もくまのりきよに月日のたれもまを
白波の花もよと一巻の海や霞みくまのりきよに月日のたれもまを

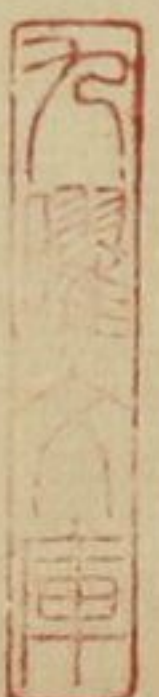
寫

くれ竹のまもあゝくまのりきよに月日のたれもまを

長巻

下折の巻候もゆきと巻もくまのりきよに月日のたれもまを

若菜



まゝとておぼしめしむらん

梅

梅のこれぞよきものなりけり

少初瀬や梅の白くも

柳

河津の柳の葉やみづく

喜多

野山よしのめくらめ

帰居

くらげにもあひしら

花

まの中の花とく

色も青もあひの

花はあふみの色

三吉の光のけり

山々の花やいつ

五月

花はあてなむ

藤

あうらたのゆ

款冬

花はあふみの

二月書

花の後の夕陽にうらやましく甲斐の事一筆に書きあらわし

夏

卯花

と花のまはたまつたりし昔のしづかき花のうらやましく

郭云

みやとそれ一秋のやしの郭云とてくれぬはつとてん

河島二村山れ一秋のやしの郭云とてくれぬはつとてん

六月とみりの花の河島とてくれぬはつとてん

夏月

やれぬ秋のありとも夏夜とてくれぬはつとてん

六月雨

花のあはれとてくれぬはつとてん

くれぬはつとてん

雲

花のあはれとてくれぬはつとてん

夕立

花のあはれとてくれぬはつとてん

納涼

花のあはれとてくれぬはつとてん

秋

早梅

かたはら 萩のふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

カタ

あつちのふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

あつちのふりしるし

あつちのふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

あつちのふりしるし

あつちのふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

萩

あつちのふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

萩

あつちのふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

萩

あつちのふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

萩

あつちのふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

萩

あつちのふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

萩

あつちのふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

萩

あつちのふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

あつちのふりしるし 萩のふりしるし 萩のふりしるし

月の光をすくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる

栲衣

あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる

露

あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる

紅葉

あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる

書梅

あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる

冬

初冬

あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる

何処

あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる

落葉

あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる
あふくともくはるる

冬月

月もわかたけならぬしらねのちかきもあはれいかに

秋夜

まらぬちかきもあはれいかに

雪

あはれいかに

秋のちかきもあはれいかに

まらぬちかきもあはれいかに

歳暮

あはれいかに

恋

秋夜

あはれいかに

秋夜

あはれいかに

あはれいかに

秋夜

あはれいかに

あはれいかに

あはれいかに

あはれいかに

あはれいかに

秋夜

いづれかよきまじりておのれをいふもよきまじりて

曉別意

あきとらふしむらひのこゝろにけしきほく付鳥は種もらう

後朝

あまのつらみもあまのつらみの神のまじり

會不登

たゞのこゝろをいふは海門のまじりては神のまじり

しむらひのこゝろをいふは神のまじりては神のまじり

あまのつらみもあまのつらみの神のまじり

あまのつらみもあまのつらみの神のまじり

あまのつらみもあまのつらみの神のまじり

忘去

書とりりて一筆もゆらんをゆらんを思つて

あまのつらみもあまのつらみの神のまじり

あまのつらみもあまのつらみの神のまじり

松意

あまのつらみもあまのつらみの神のまじり

雜

曉

あまのつらみもあまのつらみの神のまじり

松

あまのつらみもあまのつらみの神のまじり

竹

とまよまらうらうらひりり竹のゆめを物いこま

山

くまらうまにうま煙りまゆりゆりゆりゆり

川

まうらうまらうらうらうらうらうらうらうら

橋

ゆまいたにうらうら橋柱まゆりまゆりまゆり

関

あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

松

草枕のゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ
ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

海海

まゆりまゆりまゆりまゆりまゆりまゆりまゆり

山家

まゆりまゆりまゆりまゆりまゆりまゆりまゆり

まゆりまゆりまゆりまゆりまゆりまゆりまゆり

田家

まゆりまゆりまゆりまゆりまゆりまゆりまゆり

迷橋

まゆりまゆりまゆりまゆりまゆりまゆりまゆり

しらけりしやまの枝に吹く風の音

懐圃

くさねの影をみれば思はれぬ

琴

あふれぬ花の影をみれば思はれぬ

神祇

あふれぬ花の影をみれば思はれぬ

尺教

あふれぬ花の影をみれば思はれぬ

秋

あふれぬ花の影をみれば思はれぬ

春

文徳二年自地巻帙 林と云ふ巻帙別和名

立春

とらけりしやまの枝に吹く風の音

山玉

あふれぬ花の影をみれば思はれぬ

海鳥

あふれぬ花の影をみれば思はれぬ

鳥

あふれぬ花の影をみれば思はれぬ

野々

あふれぬ花の影をみれば思はれぬ

梅園

さしづけ白く花より紅くして月夜に梅の本
柳

あけくは伊勢の柳の枝は白くさ

五月

鳥の尾は赤く花は白くさ

喜夜

あけくは伊勢の柳の枝は白くさ

屏風

天は白く花は赤くさ

早蕨

さしづけ白く花より紅くして月夜に梅の本

裁花

たきくは伊勢の柳の枝は白くさ

ぬ花

越のくは伊勢の柳の枝は白くさ

花盤

あけくは伊勢の柳の枝は白くさ

梅以花

誰神の白く花より紅くして月夜に梅の本

落花

あけくは伊勢の柳の枝は白くさ

苗代

勝心くせはつらくも成るはるも苗代はるも成るはるも

歎冬

橋の若れはつらくも成るはるも苗代はるも成るはるも

藤

夕日影を照らすも成るはるも苗代はるも成るはるも

善喜

年毎はつらくも成るはるも苗代はるも成るはるも

更衣

たらふつらくも成るはるも苗代はるも成るはるも

養

あつらふはつらくも成るはるも苗代はるも成るはるも

待河鳥

物もつらくも成るはるも苗代はるも成るはるも

河鳥遍

河鳥もつらくも成るはるも苗代はるも成るはるも

善喜

あつらふはつらくも成るはるも苗代はるも成るはるも

橋

橋の白くも神も成るはるも苗代はるも成るはるも

五月毎

流川はつらくも成るはるも苗代はるも成るはるも

白

十

夏草

花やありとありていづれも夏草のまじりては

夏月

夕の月の如月のまじりては夏草のまじりては

蚊巻火

いよとていづれもいづれも蚊巻火のまじりては

露

花露のまじりては夏草のまじりては

池蓮

水きくうらやなまじりては池蓮のまじりては

夕立

夕どけり夕立とていづれも夕立のまじりては

納涼

昔のよき納涼とていづれも納涼のまじりては

六月後

中夏の月待つとていづれも六月後のまじりては

子梅

梅風とていづれも子梅のまじりては

七夕

七夕のまつりまつりては七夕のまじりては

萩

梅のまじりては萩のまじりては

梅

今まに色もわすれん昔は秋來花よりあつて春のちかふ
女師花

だらけの雪のまもゆきもあつたのちかふ花の西り

虫

たのしみもあつたのちかふ花の西り

初春

くる春のちかふ花の西り

田麻

あつた春のちかふ花の西り

梅々

あつた春のちかふ花の西り

山月

あつた春のちかふ花の西り

梅月

あつた春のちかふ花の西り

浦月

あつた春のちかふ花の西り

秋月

あつた春のちかふ花の西り

古寺月

あつた春のちかふ花の西り

曉鳴

初冬の曉鳴の聲は

栲衣

栲衣の夜寒の枕

いさぎ

いさぎの朝の露

菊

菊の秋の香

紅葉

紅葉の秋の風

九月夜

九月夜の月

冬

初冬

初冬の雪

雨

雨の冬

雪

雪の冬

霜

霜の冬

氷

本三集

高き山の東麓にてもまゝに中庭に杉を植ゑる昔の木の石の

冬月

秋の日の光をたゞみながらの秋の光にまじりて

水

あつちのあつちのこゝろにささるる水は

水鳥

あつちのあつちのこゝろにささるる水は

水鳥

あつちのあつちのこゝろにささるる水は

水鳥

あつちのあつちのこゝろにささるる水は

水鳥

あつちのあつちのこゝろにささるる水は

水鳥

あつちのあつちのこゝろにささるる水は

水鳥

あつちのあつちのこゝろにささるる水は

水鳥

あつちのあつちのこゝろにささるる水は

水鳥

あつちのあつちのこゝろにささるる水は

水鳥

水鳥

水鳥

初意

思ふに、此の意は、

忠意

海に舟を乗せ、

行意

行くに、

同意

人の心を、

不意

母の意に、

契意

あつた、

意

の、

別意

あつた、

初意

思ふに、

意

朝の、

別意

起る、

歌名

~~~~~

増意

~~~~~

梅意

~~~~~

梅意

~~~~~

梅意

~~~~~

梅意

~~~~~

田

~~~~~

田

~~~~~

梅意

~~~~~

雜

曉

~~~~~

名茶

しらべのあはれをうけしむるに
たのしみは

あはれをうけしむるに
たのしみは

あはれをうけしむるに
たのしみは

あはれをうけしむるに
たのしみは

あはれをうけしむるに
たのしみは

あはれをうけしむるに
たのしみは

長文

人教

徳云

あはれをうけしむるに
たのしみは

歳暮立書 御教

あはれをうけしむるに
たのしみは

あはれをうけしむるに
たのしみは

海霞

霞を燃ゆる草の影をしのぼる
素稟堂

紫の戸のたぐりし鳥の喜ぶる
津の棠

とえつる縁依もて津の草の根よ
松階雪

初日とて雪の音や
庭梅

明け橋の白くに
舟橋

つるらの人のまはる梅と
初柳

あつらひの柳の枝を
春の喜

あつらひの柳の枝を
春月

あつらひの柳の枝を
晴波石

あつらひの柳の枝を
結花

あつらひの柳の枝を
結花

為花

うけぎほきはてなみちをのどくはすくはなをわたりて

見毛

あけのけしきのまをうけつる花はりしやうけりふり

杉花

山橋へ一枝とて入るのまじりていつたもあやふし

惜花

うらたにむねのなみちをわたりてあやふし花のなみち

里歌冬

花のなみちをわたりてあやふし花のなみち

池友

うけぎほきはてなみちをのどくはすくはなをわたりて

暮雲

うけぎほきはてなみちをのどくはすくはなをわたりて

里歌冬

うけぎほきはてなみちをのどくはすくはなをわたりて

柿葉

うけぎほきはてなみちをのどくはすくはなをわたりて

杜郵云

うけぎほきはてなみちをのどくはすくはなをわたりて

中宮云

うけぎほきはてなみちをのどくはすくはなをわたりて

うけぎほきはてなみちをのどくはすくはなをわたりて

夕麻

妻や馬らら... 月のおて... 麻の夕雲の如
初や入る

よのつら... 初めは

心寄

あつら... 心寄

梅田

あの中... 梅田

禁中月

く梅... 禁中月

あの中... 禁中月

社以月

まの... 社以月

おち月

ははの... おち月

山家月

あか... 山家月

閑居月

あか... 閑居月

津橋夜

月... 津橋夜

春菊

菊のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

秋の葉

秋の葉のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

雪の山

雪の山のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

九月の風

九月の風のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

川の舟

川の舟のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

梅の花

梅の花のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

竹のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

雪の山

雪の山のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

湖水

湖水のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

冬月

冬月のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

漢子鳥

漢子鳥のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

朝雪

朝雪のよき花はしらべはるるはらばらとてはるるはらばらとてはるるはらばら

夕夕

兼吉

埋火の園よりそとをのぞく山に雲の舞を
見れば

歳言

雪の舞を山に雲の舞を
見れば

夕夕

兼吉

埋火の園よりそとをのぞく山に雲の舞を
見れば

兼吉

夕夕

兼吉

埋火の園よりそとをのぞく山に雲の舞を
見れば

夕夕

兼吉

埋火の園よりそとをのぞく山に雲の舞を
見れば

夕夕

兼吉

埋火の園よりそとをのぞく山に雲の舞を
見れば

寄江表

あはれなる江の波の音もなほなほ

寄洛表

あはれなる洛の音もなほなほ

寄海表

あはれなる海の音もなほなほ

寄池表

あはれなる池の音もなほなほ

寄山表

あはれなる山の音もなほなほ

寄橋表

あはれなる橋の音もなほなほ

あはれなる松の音もなほなほ

寄海表

あはれなる海の音もなほなほ

寄浦表

あはれなる浦の音もなほなほ

寄溪表

あはれなる溪の音もなほなほ

寄沼表

あはれなる沼の音もなほなほ

寄溪表

あはれなる溪の音もなほなほ

夕陽の姿

夕陽の姿は 夕陽の姿は 夕陽の姿は 夕陽の姿は 夕陽の姿は

懐秋

懐秋の情は 懐秋の情は 懐秋の情は 懐秋の情は 懐秋の情は

吾松

吾松の影は 吾松の影は 吾松の影は 吾松の影は 吾松の影は

雜弁

雜弁の語は 雜弁の語は 雜弁の語は 雜弁の語は 雜弁の語は

路若

路若の草は 路若の草は 路若の草は 路若の草は 路若の草は

昔の草

昔の草は 昔の草は 昔の草は 昔の草は 昔の草は

霧中

霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は

霧中

霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は

霧中

霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は

霧中

霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は

霧中

霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は 霧中の影は

字の志懐四

よきあしき昔も今も力のたはしむるはさうしき

字の世懐四

あつちのうらみの仲もさうなうらみの可憐のうら

字の情述懐

うらみんあつちのうらみのうらみのうらみのうら

字の源志懐

あつちの海はうらみのうらみのうらみのうら

字の力志懐

あつちのうらみのうらみのうらみのうら

字の林志懐

林玉集の中へ林玉集の志懐とていふありあふ

字の志懐紙

あつちのうらみのうらみのうらみのうら

字の水尺教

あつちのうらみのうらみのうらみのうら

字の灯尺教

あつちのうらみのうらみのうらみのうら

字の紙

あつちのうらみのうらみのうらみのうら

紙

蘇三首和可

聖朝出法系

子喜和歌

あきのよきのひらのねんげんきりてきりてきり

海美草

あやまゝのうき世しのくさ海くさのうき

晴梅

梅よりせらるるてくるの身もくさくさ

花梅山

いづれ梅のうきさきさきのききさきさき

心と言春

波のうきのよきのうきさきさきさき

溪卯花

手搦ひりりしは卯のしほをいかにききしうら

野郎云

都云梅をくるといふはうらまへしものしほをいかに

ぬね梅の

梅のしほをいかにとふはうらまへしものしほをいかに

月お萩

風より萩の下萩お萩のしほをいかにとふはうらまへしもの

夕虫

あはれし夕虫お萩のしほをいかにとふはうらまへしものしほをいかに

酒の麻

妻のしほをいかにとふはうらまへしものしほをいかに

雨庭為

一村のしほをいかにとふはうらまへしものしほをいかに

名不橋家

あはれし名不橋家のしほをいかにとふはうらまへしものしほをいかに

初雪の芦

あはれし初雪の芦のしほをいかにとふはうらまへしものしほをいかに

海舟の馬

あはれし海舟の馬のしほをいかにとふはうらまへしものしほをいかに

春の音

あはれし春の音のしほをいかにとふはうらまへしものしほをいかに

中ノ初ノ意

~~~~~

端ノ意

~~~~~

増ノ意

~~~~~

巻ノ意

~~~~~

被ノ意

~~~~~

様ノ意

~~~~~

様ノ意

~~~~~

様ノ意

~~~~~

山ノ意

~~~~~

山ノ意

~~~~~

山ノ意

~~~~~

~~~~~

高水懐旧

わがふるさとをしのぶ心は
あふれぬほどに思ふに
あふれぬほどに思ふに

高水懐旧

わがふるさとをしのぶ心は
あふれぬほどに思ふに
あふれぬほどに思ふに

高水懐旧

わがふるさとをしのぶ心は
あふれぬほどに思ふに
あふれぬほどに思ふに

神のまに

寛文九年己酉
家範廣吉辰

